

日本産スゲ属植物の分布 (一)

玉城 松栄 秋山 茂雄

里見 信生 望月 陸夫

Shoei TAMAKI, Shigeo AKIYAMA, Nobuo SATOMI, Rikuo MOCHIZUKI :

Distribution Maps of the Carices in Japan (1)

日本産スゲ属 (*Carex*) の研究は以前にひきつづき、ここ数10年特に詳細に調査され、夫々分布についても記述、考察されている。たとえば秋山 (1951, 1955) は極東亜 (旧日本領) 産61節、346種を樺太南部から千島、北海道、本州、四国、九州、琉球、台湾、朝鮮等の10地区に分けて考察し、更に分布様式を32様式に細分して検討し、なお外域との連絡はA、大陸と朝鮮半島間；B、大陸と樺太間；C、カムチャツカ方面より千島に及ぶ間；D、台湾と中国間；E、台湾とフィリッピン；F、中国中部と日本西部間；G、その他等に区分して考察している。近年岡本 (1965) は山陰、山陽産75種5変種について、その地域の分布地図を報告している。

筆者等は日本全域に関する分布地図を作製して、考察、批判したく、自らの採集品はもとより、東京大学、京都大学、北海道大学、科学博物館、金沢大学所蔵の標本により、又信すべき範囲の報告産地をもとにして、堀川 (1955) の地理方形区 (国土地理院の5万分の一地形図の1区画を分布点をうつ単位とする。) の方法により分布地図を作製する事にした。この中、現在、原・金井 (1958) の Distr. Type IV-C 及び V の分布をみるとみられる種をあげると次の様である：オオカサスゲ (*C. rhynchophylla*)、ミヤマクロボスゲ (*C. flavocuspis* var. *flavocuspis*)、ハナマガリスゲ (*C. pilosa* var. *auriculata*)、チヤシバスゲ (*C. verna* var. *microtricha*)、ハクサンスゲ (*C. canescens*)、キンチャクスゲ (*C. mertensii* var. *urostachys*)、ハガクレスゲ (*C. jacens* var. *jacens*)、スイオスゲ (*C. vanheurckii*)、ヒラギシスゲ (*C. angustinowiczii* var. *angustinowiczii*)、ホロムイスゲ (*C. middendorffii* var. *middendorffii*)、サドスゲ (*C. sadoensis*)、イワスゲ (*C. stenantha* var. *stenantha*)、イトアオスゲ (*C. puberula* var. *puberula*)、ヒメカワズスゲ (*C. brunnescens*)、ミタケスゲ (*C. michauxiana* var. *asiatica*)、ヒカゲシラスゲ (*C. planiculmis*)、ミノボロスゲ (*C. albata*)、ヒロバスゲ (*C. insanae* var. *insanae*)、ナガボノコジュジュスゲ (*C. vanioti*)、ミチノクホンモンジスゲ (*C. cuneata*)、アシボロスゲ (*C. tenuisetata*)、アイヅスゲ (*C. hondoensis*)、タテヤマスゲ (*C. aphyllopus*)、ダケスゲ (*C. pauperula*)、マシケスゲモドキ (*C. scitaeformis*)、ホスゲ (*C. senanensis*)、計27種。本報告ではその中6種について分布地図を作製し、以下これをあげる。

1. *Carex michauxiana* BÜCKELER var. *asiatica* (HULTÉN) OHWI ミタケスゲ (Map-I)

この種の基本変種は北米に産し、本変種とは隔絶されている。本変種は小穂3—5、直立、頂小穂は雄花、線形、側小穂雌花；のう苞は膜質、狭長形、長さ0.9—1.3cm、淡黄緑色、後水平に開出、長

嘴の口辺は硬質で2浅裂；柱頭は3岐。分布はカムチャッカ、千島、北海道、本州で、連絡はカムチャッカ方面より千島、更に本邦に入るものと考えられ、千島—北海道—本州の連絡（秋山，1951）をする種（タカネヤガミスゲ、イトキンスゲ、ヒロバスゲ、ハガクレスゲ、イトナルコスゲ、キンチャクスゲ、ミタケスゲ、ホソボナルコ、ホロムイクグ、ダケスゲ等）に含まれる。特にこの変種の本邦に於ける分布は北海道稚内から本州の愛知県三河までの湿地に産するが、叢生して群落をなす事は殆どなく、湿地内で他の植物の間に疎生し、例えば北海道美唄のミズゴケ泥炭湿地ではヤマウルシ、ヒメシャクナゲ等の低木、ホロムイソウ、ホロムイスゲ、ヤチカワズスゲ、ワタスゲ、ミツバオウレン、ガンコウラン、トキソウ、ツルコケモモ、ミズギボウシ等の草本間に疎生していた。

2. *Carex insaniae* KOIDZUMI ヒロバスゲ (Map-II)

本種はヒエスゲ節 (Sect. *Rhomboidales*) に属し、全株剛強；茎の高さ5—30cm、1株中に短形のものもありこれらは彎曲して地上を匍う；葉は巾広く6—12mm、無毛；頂小穂は雄花、棍棒状、側小穂は雌花、長だ円形；雌花穎は蒼白色で短芒を有す；のう苞は長さ5—6mm、やや長嘴、暗緑色、短毛疎布、側方へ開出；柱頭3岐である。本節の各種の分布はウミノサチスゲ (*C. augustini*) が硫黄島のみ、リュウキユウヒエスゲ (*C. collifera*) は琉球のみ、セキモンズゲ (*C. toyoshimana*) は小笠原諸島のみで知られており、クロシマスゲ (*C. matsumurae*)、ヒゲスゲ (*C. boottiana*)、アオヒエスゲ (*C. subdita*)、オオムギスゲ (*C. laticeps*)、アカネスゲ (*C. poculisquama*)、アオバスゲ (*C. insaniae* var. *papillaticulmis*) はいずれも Distr. Type II—A又はIII（原・金井，1958）の分布をしていると思われる。この節の大部分の種が本邦南東部の温暖な地域に生えている事を示す。この種と分布地が重なると思われるこの節に含まれる種は、マツマエスゲ (*C. longerostrata*) であるが、ヒロバスゲ (*C. insaniae*) の林内の落葉の間に生ずるのに対し、マツマエスゲは砂礫地、草地等に生ずる。本種の分布域は千島、北海道、本州で、上記(1)のミタケスゲ (*C. michauxiana*) と同じく、千島—北海道—本州の連絡をする種と見る事ができ、本邦での分布は北海道、北見から本州の福井県までは連続しているが福井県から山口県までの採集記録がなく、本州では山口県に飛んで、ここと九州福岡県糸島郡の標本がある。この本州での不連続な分布については、秋山（1955）が指摘しているように千島—北海道—本州の連絡で本邦に入るものに、樺太を経て入るもの、朝鮮を経て入るものもある事を考えると、あるいは朝鮮から九州—本州の連絡も考えられるが朝鮮の採集記録がないのでなお検討を要する。

3. *Carex sadoensis* FRANCHET サドスゲ (Map-III)

本種は茎の高さ30—70cm；根茎は長匍枝を出す；頂小穂は雄花、棍棒状、側小穂は雌花で多数花密花；のう苞は2—2.5mm、嘴部はやや長形をなし両側はざらつく；雌花穎は赤褐色—紫黒色でのう苞より長い；柱頭は約5mmでのう苞の2倍位あり永存する。

本種の分布域は樺太、千島、北海道、本州で、その連絡型は^{樺太}千島 > 北海道—本州（秋山，1951）である、これと同じ連絡型であるとおもわれる種はエゾサワスゲ (*C. oederi* var. *viridura*)、タカネハリスゲ (*C. pauciflora*)、ゴンゲンズゲ (*C. sachalinensis*)、イッポンスゲ (*C. tenuiflora*)、カミカワスゲ (*C. sabynensis*)、オノエスゲ (*C. tenuiformis*)、ホソバオセヌマスゲ (*C. nemurensis*)、ヤラメスゲ (*C. lyngbyei*)、カンチスゲ (*C. gynocrates*)、ツルスゲ (*C. pseudo-curaica*)、グレーンスゲ (*C. parciflora*)、オオカサスゲ (*C. rhynchophysa*)、マツマエスゲ (*C. longerostrata*)、ヌイオスゲ (*C.*

vanheurckii), ヤチスゲ (*C. limosa*), ヒラギシスゲ (*C. augustiniowiczii*), ホロムイスゲ (*C. midden-dorfii*), ハクサンスゲ (*C. canescens*), チャシバスゲ (*C. verna* var. *microtricha*), 等である。本種の本邦での分布は北海道礼文島, 知床半島から本州鳥取県にまで分布しているがその分布のしかたはやや日本海側に偏しており, 福岡 (1966) 報告のサワアザミ型に近いように思う, この種は河川畔等に多く叢生し, 稀に山腹の乾燥した土地に生ずる事もある。

4. *Carex podogyna* FRANCHET et SAVATIER タヌキラン (Map-IV)

本種は茎の高さ30—100cm; 葉は巾広く5—12mm, 裏面乳嘴突起を密布して粉白; 小穂は頂部1—3雄花, 下部2—4は雌花, 雄小穂柱状, 雌小穂は球形—だ円形, 多数花密花, 糸状長柄を有し垂下; 雌花穎はだ円形, 長さ4—5mm, 黒紫色, 短芒あり; のう苞は穎より明らかに超出し, 長柄4—6mm, 両側に長毛密布; 柱頭2岐。

分布について見ると本種の属するタヌキラン節 (Sect. *Podogynae*) は日本特産であり, その分布もそれぞれ極限されている (秋山, 1955)。即ちシマタヌキラン (*C. okuboi*) は伊豆諸島のみ, ヤクシマコタヌキラン (*C. nagatadakensis*) は九州屋久島のみ, カツタスゲ (*C. shakushizawaensis*) は信濃白馬岳のみであり, 更にザオウスゲ (*C. kattaeana*) は八甲田山と蔵王山, オクタヌキラン (*C. uzenensis*) は羽前と陸中の高山の如くである。その他にコタヌキラン (*C. doenitzii*) が本州の中, 北部に割合に広く分布している。本種は北海道石狩から本州福井県までの分布を見, 生育地は湿った傾斜岩上で母岩も特に砂岩に多いように思う。本邦特産で北海道—本州の連絡 (秋山, 1951) がある。

5. *Carex aphyllopus* KÜNKENTHAL タテヤマスゲ (Map-V)

本種はアゼスゲ節 (Sect. *Carex*) のカブスゲ亜節 (Subsect. *Thunbergiae*) に含まれていたが, 本種はカブスゲ亜節中にふくめるよりは, 本種を代表種とするタテヤマスゲ亜節 (Subsect. *Aphyllopae*) をたてるのを適当と考える (本誌3頁)。すなわちカブスゲ亜節に属する各種の分布は, コアゼスゲ (*C. eleusinoides*) とオオアゼスゲ (*C. thunbergii* var. *appendiculata*) がシベリア, カムチャツカから千島—北海道の連絡をし, カブスゲ (*C. caespitosa* var. *caespitosa*) とシュミットスゲ (*C. schmidtii*) は満州, シベリアから樺太—北海道の連絡をし, 本邦では北海道のみに産する。アゼスゲ (*C. thunbergii* var. *thunbergii*) は樺太—北海道—本州—四国—九州の連絡 (秋山, 1951) をする種と思われる, 本邦での分布は広く, 産地も多く知られている。これらに反し前記タテヤマスゲは本州中・北部の山地草原に分布している。その産地は青森県から福井県に及んでいて, 明らかに日本海側に偏した分布をしており, 福岡 (1966) のいう日本海要素型の分布様式のものと思われる。その生育地の白山を例にとれば標高約2,300mの傾斜角30度位の登山道側の南西斜面に約50m²の面積に及ぶ本種のほぼ純群落がある。周辺にはハクサンフウロ, ヤマハハコ, ヤマタヌキラン, キンチャクスゲ, イトキンスゲ, ハクサントリカブト等が見られた。

6. *Carex hondoensis* OHWI アイヅスゲ (Map-VI)

本種はフサスゲ (*C. metallica*) と共にアイヅスゲ節 (Sect. *Hymenochlaenae*) に含まれ, 根茎剛強で横走し多分岐; 茎葉基部鞘葉は褐色長繊維状に細裂; 小穂は4—5, 単立, 雌雄花が混生する事なし, 頂小穂は雄花, 側小穂は雌花で細糸状平滑梗を有し垂下する。のう苞は膜質3稜形, 淡黄緑色で頂部狭長嘴をなし直立する。柱頭は3岐。

フサスゲは九州，琉球，台湾，朝鮮に分布する南方系の種であるが，本種の分布は新潟県から福井県に及び Distr. Type IV—C（原・金井，1958）に属すると思うが，上記(5)と同様日本海側に偏しており，日本海要素型の分布様式をしていると考えられる。この分布型をすると思われるスゲ属は本種の他にアシボソスゲ (*C. tenuisetata*) とホスゲ (*C. senanensis*) であるが，いずれも高山草原に生ずるもので，本種の如く山地路傍や草地，疎林内には見られない。尚本種は金沢大学植物園ではニシノホンモンジスゲ (*C. stenostachys*)，マスクサ (*C. gibba*)，シラスゲ (*C. doniana*)，ジュジュスゲ (*C. ischnostachya*)，アオスゲ (*C. leucochlora*) 等と共によく見られるスゲ属の1である。

参 考 文 献

- AKIYAMA, S. : Geographical Distribution of the Carices indigenous to the Far Eastern Region of Asia, Jour. Fac. Sci. Univ. Hokkaido ser. V vol. VII No. 3 (1951)
- : Carices of the Far Eastern Region of Asia, Hokkaido Univ. (1955)
- FUKUOKA, N. : On the Distribution Pattern of the so-called Japan Sea Element Confined to the Japan Sea Region, Jour. Geob. vol. XV, No. 1-3 (1966)
- HORIKAWA, Y. : Distributional Studies of Bryophytes in Japan and the Adjacent regions, Hiroshima. (1955)
- 堀 川 芳 雄 : 現代生物学大系5, 下等植物A, 中山書店 (1966)
- KOYAMA, T. : Classification of the Family Cyperaceae (2), Jour. Fac. Sci. Univ. Tokyo, Sect. III, Vol. VIII. Pers. 4-7 (1962)
- OHWI, J. : Cyperaceae Japonicae 1. Cyperaceae-Caricoideae, Memoirs of the College of Science Kyoto Imp. Univ. Ser. B, Vol. XI, No. 5 (1946)
- OKAMOTO, K. : Taxonomic Study of the Carices in the Western Honshu of Japan, 岡山理科大学紀要 第1号 (1965)
- 奥 山 春 季 : 尾瀬地方産スゲ属植物, 植研, 11巻9号
- YOSHIKAWA, J. : Icones of Japanese Carex, vol. I, II, III.



Map - I. *Carex michauxiana* BÖCKELER var. *asiatica* (HULTÉN) OHWI
ミタケスゲ



Map - II. *Carex insanae* Koidzumi

ヒロバスゲ



Map - III. *Carex sadoensis* FRANCHET

サ ド ス ゲ



Map - IV. *Carex podogyna* FRANCHET et SAVATIER

タスキラン



Map - V. *Carex aphyllopus* KÜKENTHAL

タテヤマスケ



Map - VI. *Carex hondoensis* OHWI

アイヅスゲ